

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400890		
法人名	有限会社諫早ケア・サービス		
事業所名	グループホーム くれも 1号館		
所在地	長崎県諫早市栗面町810-2		
自己評価作成日	平成 22 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 1月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活における様々な作業・掃除や調理の下ごしらえ、洗濯物干し、たみ等積極的に取り組まれている。得意な事、好きな事を把握し、発表の場を作り披露したり、縫物や編み物を薦め作品として飾ったり、家族へのプレゼントにしたりしている。機能低下、能力低下の進行を防ぐ為にマッサージや散歩を取り入れ、自力歩行ができない方は、その時の体調や状態に応じて歩行介助にて少しでも歩いてもらうようにしている。座位保持が困難な方は、手作りクッションにて対応している。血行障害や冷え性の方には、足浴や手作りカバー付き湯たんぽを使う事により症状が改善され、心身のリラクセスに繋がるように努めている。女性らしくやさしい気持ちをいつまでも大切にもらうようお化粧したり、髪飾りやスカーフ等で女性らしさを引き出している。状態低下した場合は、医療・家族との連携を図り、苦痛を取り除き穏やかに本人らしく終末を迎えられるように支援している。個々の趣味を会話の中で見つけ出し、レクリエーションの中に取り入れる事で日々の生きがいを見つけ活発的に生活されている。尿意・便意が定かではない人に対し、時間誘導し自立支援を行い、失禁に繋がった場合には、清拭・シャワー浴等で清潔保持に努めている。又、危険防止の為にベット下に滑り止めマットやベット足に衝撃を和らげるカバーを作り、自室でも安全に過ごせるよう環境整備を行っている。入居者同士の思いやりが強く、食事介助の時の声かけやお互いに見守り合う協調性豊かな入居者が揃っている。介護者本位の支援でなく、入居者の方に了解を取りながら自己決定のもとで支援心掛けていくつもりである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 23年 1月 11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

細部まで清掃が行き届いた清潔で明るい開放的なホームである。職員の対応も同様に優しい明るさを滲え、きめ細やかな支援がなされている。今年度は利用者のレベルダウンに伴い、あらたに課題を得て利用者、家族と向き合っている。今までは家族の思いに配慮していたが、利用者の現状をありのままに伝え受け止めて頂くことで、本人と家族のかい離を埋めて「絆」をより深めて欲しいと願っている。ターミナルケアには積極的に誠意を持って取り組んできているが、ここであらためて「家族に囲まれて逝きたい」という本人の思いを叶え親子の絆を大切にする為に、ホームとしては支援と場の提供に努めていきたいとしている。理念に沿った尊厳を大切にする支援の実践を更に深めて、本人の思いを汲み取り家族関係の再構築を図る中で、「利用者の代弁者となっていきたい」と管理者は語られた。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は理念である“一人一人の尊厳を大切に”を掲げ、入居者の暮らしを支える為毎日の申し送り時や、月一回の職員会議時を活かし、日々の介護の実施に取り組んでいる。	利用者のレベルダウンに伴い、利用者間において個々の「尊厳」を守ることが大切になってきており集団生活の困難さも感じている。職員間で問題はその場で対応を話し合い解決に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の会合に参加したり、年2回の地域との交流会を行い、地域の方々と顔なじみの関係を作っている。	餅つき、納涼祭は、地域住民に対しホームへの偏見をなくし理解を得る目的をもって定着している。運営推進会議メンバーである民生委員は老人会会長であり、今後は老人会との交流を図っていく予定で、協力を多く得られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や高校生の職場体験を受け入れ、介護の担い手となる人達の勉強の場として活用してもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での活動報告や、抱えている問題等を定義し、意見を聴かせて頂き参考にさせてもらっている。行事等にも参加して頂いている。	2ヶ月に1回の開催で今年度は順調に推移している。会議内容も毎回ホームから現状を踏まえた議題を準備し、例えば「年末年始の過ごし方」などホームの思いを投げかけ、参加者との意見交換がなされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、施設の雰囲気を見てもらい、より深く相談しやすくなり、助言してもらう事で質の向上に繋げている。	運営推進会議を通じて、また昨年のスプリンクラー設置のやりとりの中で、行政担当者と近い関係が出来たと感じており、相談などが投げかけやすくなった。行政の勤めに応じて市の連絡協議会へも加入した。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等をすることなく、目配りの中での生活の支援をしている。又代表者を含め職員と身体拘束はしないという方針の中でケアの提供を行っている。	言葉による行動制止を未然に防ぐ支援を目指しながら、例えば外出傾向の強い利用者への対応で拘束と安全確保の狭間で迷うこともある。利用者の尊厳を第一に、細かな点まで職員間で考えながら声かけ・見守りを行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し虐待は絶対に行ってはならないと日々管理者と職員とで話し、意思の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修は受けたが、現在該当する人はいない。必要となった時は活用できるように支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時点で説明を行い、不安・疑問等を話し初期段階で理解・納得してもらっている。契約書にも記載している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望が発生した場合、その都度管理者や職員で話し合い、解決していくようにしている。家族の思い・利用者の思いを考えながら日々ケアを行っている。	レベルダウンした利用者の厳しい現状を、隠すことなく家族へ伝えることとした。訪問時に伝え情報交換することで協力関係を築き、本人の思いを叶えることとホームのレベルアップを深慮しての選択であった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時、施設の状況等を説明し、理解を求めている。又職員からも打開策の意見等を取り入れ反映させている。	会議においては、ケアに関するアイデアがあれば職員から積極的に挙げて検討し、実践へ繋げている。管理者が一番現場のことがわかるのは職員との理解から、相互に意見や提案が伝えやすい関係が築かれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は希望を取り入れて作成。リーダーを中心として行事の企画・立案など各人の能力を引き出すようにしている。又研修の参加や、資格取得する目的を持たせ働く意欲を持たせている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加してもらったり、資格取得の目的をもってもらったりとスキルアップできるように支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修に参加する事で、他施設の職員との交流を行ったり訪問する機会を設けお互いにスキルアップ出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前本人との面談の中で何を求めどのように生活して行きたいのかを聞いて、本人の不安の解消に繋げている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面談の中で、不安や困っていることを聞き、施設の方針を説明しながら家族の不安を取り除くよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ・本人・家族を交え話し合い、必要としている支援や家族の希望等を見極め支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべてを支援するのではなく、個々の能力に合わせ、できる事は協力してもらいお互い助け合いながら共生している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者一人一人の様子を写真撮影してホーム内に提示したり、機関紙で日ごろの様子を伝えたり、ホームビデオを作成したりと、年1回家族会を開催したり、意見や要望等を聞き出すようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大切な人は職員にとっても大切な人と捉え、訪問時は心地よく過ごしてもらっている。家族との見舞いなどにも連れて行っている。	ホームにあっても家族、自宅が本人にとっては一番と考え、家族へは訪問、帰宅の機会を願い、その為の支援を惜しまないことを伝えている。家族関係が修復され、定期的に利用者と外食へ出かける家族も出てきた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の見守り・食事介助等。入居者自ら行っている。集団レクや、又共同での作品作り等を通じ仲間意識を持ってもらうようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した入居者の家族から頂き物をしたりと継続的にあっている。又相談は常に受けるようにし支援できる事はしていこうと考えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前面談時利用者家族の意思を把握し、職員一丸となり希望を叶えるよう努力している。本人が希望・要望する事は取り入れるように努力している	意思の疎通が困難となった方の思いは推測が多くなり、家族の思いを引き出すことが重要となってきている。観察力、洞察力をもって気づきを繋ぎ、職員間で疑問を問いかけ合うことに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、若い頃どんな仕事をし、どんな趣味があったかを知り、生活の中に役立っている。入居時なじみの家具を持ち込んでもらっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者の状態を観察し、それぞれの能力・希望を引き出しその人らしい1日を過ごしてもらっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリング(変化があるとその都度)をカンファレンス時に行い、又利用者家族の意見を把握し、職員一丸となり希望に添えるように努力している。	職員は、利用者の日々の変化を、固定観念を捨てて多くの発見が出来るよう観察と発見に努めている。変化に対して、早期にまた臨機応変に対応出来るよう、介護計画作成、モニタリングに取り組んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録に記入し、細かい変化等は連絡ノートや申し送り時に、職員に伝達・実施し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	結婚式や家族の入院のお見舞いなど支援している。訓練が必要とされる方は、隣接のデイサービスを利用してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスを利用することで機能の維持に努め、図書館で本を借り入所者方に読んでもらったり、ビデオを上映して喜んでもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時家族の希望を取り入れ、係りつけ医院を決めてもらい、安心した医療を受けてもらっている。	協力医との信頼関係は厚く、往診、他科や総合病院受診の際の医療連携など安心が得られる為に、利用者の希望のかかりつけ医としているが自然に協力医を主治医へと変わられる方も多い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護職と相談し、健康管理や医療の支援を受けている。又同一事業所の看護職とも相談・協力を要請し支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、管理者が家族と共に主治医と面談し、早期退院に向けての努力を行っている。入院時の不安を取り除く為、面会等を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどう迎えるかという事で、協力医のDr・家族・管理者と話し合い、職員全員で方針を共有している。看取りの指針を作成活用している。	今年度は看取り支援の事例はなかったが、ホームの方針として常に前向きに看取り支援に取り組んでいる。本人、家族の要望を第一に、自身の最後の場所の選択が出来るように、その思いを叶え、満足できる終焉を迎えられるような支援を心がけている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、看護師の指導を得て、マニュアルを作成し目を通すようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は消防署立会)の訓練を行い、又警備会社への通報装置を設置するなど災害対策を行っている。	運営推進会議の折に、参加者メンバーである民生委員に地域代表として建物の構造、避難経路などを見学、説明する機会を持った。拡声器を備えた方が良いのではと、具体的なアドバイスを頂くことが出来た。	今後も運営推進会議等を活用して、火災、自然災害に備えて地域との情報共有、訓練への参加協力要請、連絡網の作成など継続して取り組んでいかにすることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、言葉がけ等常に注意を払っている。ドア・カーテンを利用し、プライバシーの保護を行っている。	利用者間における「尊厳」の保護を意識している。問題行動のある方へは耳元でマンツーマンの対応を心がけ、周囲の利用者へ配慮し、状況に応じて優先順位の判断をしながら理解されるまで説明するよう努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1つ1つの行動に対し、本人に説明し、了解を求めるような支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のペース・能力に合わせた支援を行っている。又本人が希望するだろうとの発想の中で支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に美容師がいて、入居者の希望に合わせ、カット・毛染めの支援を行っている。無料で提供している為、金銭的負担軽減にもつながっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の目線に合わせ、1日のメニューをボードに記入し、入居者の好みに合わせランチマットを選んでもらったり、職員も共に食事をし全員が食べ終わるのを待って片づけしている。	月に2回はお刺身の日といった食の楽しみと、健康管理を考えた献立に加えて、調理する管理者、職員の思いを届けるような季節感と心配りに溢れた食卓である。家族の協力でホームの菜園で収穫した野菜も食卓にのぼった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・おかゆ・刻み等、その人に合わせた食事で提供し、水分補給の為、夜間もペットボトルにお茶をいれるなどに対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、週1回入れ歯洗浄を行っている。歯磨きができない入居者については、介助にて支援している。又トウスエッティを使い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、自立での排泄困難な方は、時間誘導するなど支援している。排泄チェック表を作成し記録を取っている。	身体機能低下を防ぐことを第一にトイレでの排泄を行なっている。出来る限り、状態によっては二人介助でトイレでの排泄を支援している。夜間のみ、安眠と安全に配慮して一部ポータブルトイレ、おむつを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維の多い食べ物の摂取を心がけ、毎日ラジオ体操や散歩を行っている。又排泄チェック表により排便のチェックを行い、腹部マッサージやDrと相談し薬の調節を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は週3回で介助しながら一人一人の入浴を行い、必要に応じシャワー浴などの支援も行っている。拒否ある人は時間をずらしたり次の日に入浴を行っている。	2ユニットで1日おきに入浴いただいております。毎日入浴可能で汚染など状況により対応し清潔保持に努めている。浴槽に浸かっている時間は、介助の職員との1対1で、リラックスしてコミュニケーションを図る機会としている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を多く取り入れ、夜間良眠に繋がっている。睡眠パターンを記録で把握し、眠剤の服用はなく、ホットミルクや湯たんぽ等で支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、全員処方箋をファイルし、職員がいつでも目を通せるようにしている。変更があった場合は、申し送りや連絡ノートに記入し状態観察を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理・茶碗吹き・洗濯物干し、たたみ・園芸等、自分の役割が生きがいに繋がるように支援している。又個々の趣味も継続できるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の入院見舞い・旅行・墓参り等家族の協力の元行っている。	体調、身体状況を見極めながらである為困難な方が多くなってきているが、買い物や精米などに職員に同行し外出されることもある。リフト付車両を備えており、花見、紅葉狩りと季節の風物とホテルでの外食を楽しむ外出も毎年行なっている。また、敷地内を毎日散歩する支援は日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者は自己管理していない。施設での立替。買い物に行き自らお金を支払う事ができるようには支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望すれば子機を渡し、自室にて使用できるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテレビ・ソファを置き、入居者が集まりやすい雰囲気である。手作りののれんをかけ台所はカウンターキッチンで常に入居者が目にはいるようになっている。清潔をモットーとしている。季節に合わせた雰囲気づくりをしている。	温度、湿度に配慮された清潔で明るいリビングは、広い窓から訪問者や菜園を眺められ、終日集いの場となっている。浴室、トイレ、廊下も同様に清掃が行き届き、ゆとりある空間で車椅子での対応も出来ている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓テーブル・ソファを設置し、入居者同士自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は入居者が入居前に使用していた家具や生活用品等が持ち込まれ、その人らしい部屋づくりをしている。	ほとんどの居室が畳敷きであり、家族訪問時や、ターミナルケアの際に家族が宿泊する場合も便利がよい。本人の馴染みの品の持ち込みが多いため個性が感じられ、清掃が行き届いた快適な空間である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の安全性に配慮し、居室入口や廊下などに手すりを設置。床面はバリアフリーとなっている。手作りの表札や、手作りのカレンダー・時計の位置にも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400890		
法人名	有限会社諫早ケア・サービス		
事業所名	グループホーム くれも 2号館		
所在地	長崎県諫早市栗面町810-2		
自己評価作成日	平成 22 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 1月 26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 23年 1月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は理念である“一人一人の尊厳を大切に”を掲げ、入居者の暮らしを支える為毎日の申し送り時や、月一回の職員会議時を活かし、日々の介護の実施に取り組んでいる。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の会合に参加したり、年2回の地域との交流会を行い、地域の方々と顔なじみの関係を作っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や高校生の職場体験を受け入れ、介護の担い手となる人達の勉強の場として活用してもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での活動報告や、抱えている問題等を定義し、意見を聴かせて頂き参考にさせてもらっている。行事等にも参加して頂いている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、施設の雰囲気を見てもらい、より深く相談しやすくなり、助言してもらった事で質の向上に繋がっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等をすることなく、目配りの中での生活の支援をしている。又代表者を含め職員と身体拘束はしないという方針の中でケアの提供を行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し虐待は絶対に行ってはならないと日々管理者と職員とで話し、意思の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修は受けたが、現在該当する人はいない。必要となった時は活用できるように支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時点で説明を行い、不安・疑問等を話し初期段階で理解・納得してもらっている。契約書にも記載している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望が発生した場合、その都度管理者や職員で話し合い、解決していくようにしている。家族の思い・利用者の思いを考えながら日々ケアを行っている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時、施設の状況等を説明し、理解を求めている。又職員からも打開策の意見等を取り入れ反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は希望を取り入れて作成。リーダーを中心として行事の企画・立案など各人の能力を引き出すようにしている。又研修の参加や、資格取得する目的を持たせ働く意欲を持たせている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加してもらったり、資格取得の目的をもってもらったりとスキルアップできるように支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修に参加する事で、他施設の職員との交流を行ったり訪問する機会を設けお互いにスキルアップ出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前本人との面談の中で何を求めどのように生活して行きたいのかを聞いて、本人の不安の解消に繋げている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面談の中で、不安や困っていることを聞き、施設の方針を説明しながら家族の不安を取り除くよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ・本人・家族を交え話し合い、必要としている支援や家族の希望等を見極め支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべてを支援するのではなく、個々の能力に合わせ、できる事は協力してもらいお互い助け合いながら共生している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者一人一人の様子を写真撮影してホーム内に提示したり、機関紙で日ごころの様子を伝えたり、ホームビデオを作成したりと、年1回家族会を開催したり、意見や要望等を聞き出すようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大切な人は職員にとっても大切な人と捉え、訪問時は心地よく過ごしてもらっている。家族との見舞いなどにも連れて行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の見守り・食事介助等。入居者自ら行っている。集団レクや、又共同での作品作り等を通じ仲間意識を持ってもらうようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した入居者の家族から頂き物をしたりと継続的にあっている。又相談は常に受けるようにし支援できる事はしていこうと考えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前面談時利用者家族の意思を把握し、職員一丸となり希望を叶えるよう努力している。本人が希望・要望する事は取り入れるように努力している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、若い頃どんな仕事をし、どんな趣味があったかを知り、生活の中に役立てている。入居時なじみの家具を持ち込んでもらっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者の状態を観察し、それぞれの能力・希望を引き出しその人らしい1日を過ごしてもらっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリング(変化があるとその都度)をカンファレンス時に行い、又利用者家族の意見を把握し、職員一丸となり希望に添えるように努力している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録に記入し、細かい変化等は連絡ノートや申し送り時に、職員に伝達・実施し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	結婚式や家族の入院のお見舞いなど支援している。訓練が必要とされる方は、隣接のデイサービスを利用してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスを利用することで機能の維持に努め、図書館で本を借り入所者方に読んでもらったり、ビデオを上映して喜んでもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時家族の希望を取り入れ、係りつけ医を決めてもらい、安心した医療を受けてもらっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護職と相談し、健康管理や医療の支援を受けている。又同一事業所の看護職とも相談・協力を要請し支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、管理者が家族と共に主治医と面談し、早期退院に向けての努力を行っている。入院時の不安を取り除く為、面会等を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどう迎えるかという事で、協力医のDr・家族・管理者と話し合い、職員全員で方針を共有している。看取りの指針を作成活用している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、看護師の指導を得て、マニュアルを作成し目を通すようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は消防署立会)の訓練を行い、又警備会社への通報装置を設置するなど災害対策を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、言葉がけ等常に注意を払っている。ドア・カーテンを利用し、プライバシーの保護を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1つ1つの行動に対し、本人に説明し、了解を求めような支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のペース・能力に合わせた支援を行っている。又本人が希望するだろとの発想の中で支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に美容師がいて、入居者の希望に合わ、カット・毛染めの支援を行っている。無料で提供している為、金銭的負担軽減にもつながっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の目線に合わせ、1日のメニューをボードに記入し、入居者の好みに合わせランチマットを選んでもらったり、職員も共に食事をし全員が食べ終わるのを待って片づけしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・おかゆ・刻み等、その人に合わせた食事で提供し、水分補給の為、夜間もペットボトルにお茶をいれるなどに対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、週1回入れ歯洗浄を行っている。歯磨きができない入居者については、介助にて支援している。又トゥースエッティを使い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、自立での排泄困難な方は、時間誘導するなど支援している。排泄チェック表を作成し記録を取っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維の多い食べ物の摂取を心がけ、毎日ラジオ体操や散歩を行っている。又排泄チェック表により排便のチェックを行い、腹部マッサージやDrと相談し薬の調節を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数は週3回で介助しながら一人一人の入浴を行い、必要に応じシャワー浴などの支援も行っている。拒否ある人は時間をずらしたり次の日に入浴を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を多く取り入れ、夜間良眠に繋げている。睡眠パターンを記録で把握し、眠剤の服用はなく、ホットミルクや湯たんぽ等で支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、全員処方箋をファイルし、職員がいつでも目を通せるようにしている。変更があった場合は、申し送りや連絡ノートに記入し状態観察を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理・茶碗吹き・洗濯物干し、たたみ・園芸等、自分の役割が生きがいに繋がるように支援している。又個々の趣味も継続できるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の入院見舞い・旅行・墓参り等家族の協力の元行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者は自己管理していない。施設での立替。買い物に行き自らお金を支払う事ができるようには支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望すれば子機を渡し、自室にて使用できるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテレビ・ソファを置き、入居者が集まりやすい雰囲気である。手作りののれんをかけ台所はカウンターキッチンで常に入居者が目にはいるようになっている。清潔をモットーとしている。季節に合わせた雰囲気づくりをしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓テーブル・ソファを設置し、入居者同士自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は入居者が入居前に使用していた家具や生活用品等が持ち込まれ、その人らしい部屋づくりをしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の安全性に配慮し、居室入口や廊下などに手すりを設置。床面はバリアフリーとなっている。手作りの表札や、手作りのカレンダー・時計の位置にも配慮している。		